

平成30年度 赤穂市学校評価

外部評価報告書

学校園名 赤穂市立 赤穂東中学校

総合的な学校関係者評価

○今年は猛暑や警報など異常気象の年であった。このようなとき、生徒の安全を第一に考えて事故の無いよう気をつけてほしい。

○登下校の挨拶をはじめ、生徒たちの姿がここ数年で良い方向に変わってきている。先生方の日々の努力の成果である。

○生徒たち一人一人が夢を持ち、その実現を目指してがんばれるように、個性を伸ばす教育が大切である。

○ふれあいまつりや三世代餅つきなど、中学生が地域行事に参加してくれて助かっている。中学生が関われる地域行事を今後も考えていきたい。

1 本年度の学校経営方針

【学校教育目標】 『若木の精神』を『誇り』とし ころ豊かな生徒の育成
～『志』高く、実行力ある、活力ある学校をめざして～

【学校教育目標の具現化への基本方針】

- (1) 「心」あるあいさつと思いやりの心の充ちる生徒の育成に努める。
- (2) 「個」をつなぎ、「考」を紡ぎあう『学び』から、さらなる高みを求める態度を養う。
- (3) よりよい生き方を目指し、『夢』と『志』を持つ豊かな人間性を培う。
- (4) 「東中の『誇り』」を胸に、地域とともに魅力ある教育環境づくり・人づくりに努める。

2 本年度の学校重点目標

- (1) 確かな学力を育み、わかる授業づくりを推進する。
- (2) 人権感覚・人権意識を基盤とした学校文化を創造する。
- (3) すこやかな体を培う。
- (4) 「気づき・考え・行動する」主体的な生徒を育成する。
- (5) 特別支援教育の充実を図る。
- (6) 魅力ある学校づくり、地域に信頼される学校づくりを進める。

学校関係者評価

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

3 自己評価結果 (A～D) A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

観 点 (重点目標)	評 価 項 目 (学校・教師の取組) 評価指標 および 目標値 (期待される姿)	評価資料	達成 状況	改善の方策
1. 人間として当たり前のことができる集団を育て、人としての心を育てる。	項目 挨拶・服装をはじめ、基本的な生活習慣を確立させることができたか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○挨拶、服装、時間を守ることなどの基本的な生活習慣の確立にあたっては、全職員の共通理解のもと、家庭との連絡を密にしながら、学校生活のあらゆる場面で、個々の生徒に応じた指導や対応を行う。 ○清掃活動、ボランティア活動など生徒の活動を活性化にあたっては、日々の学校生活の中での地道な取り組みが大切であることとの理解と自覚を促し、達成感とともに生徒の意識が更に高揚するよう指導する。 ○生徒1人1人が、「自分は大切に思われている」と感じられるような関わりをすることで教師と生徒の良好な人間関係を積み上げていく。 ○ボランティア活動や地域行事への参加を促し、奉仕の精神や地域の方々の思いに触れる機会を多くすることで、地域を担う一人としての心を養う。
	指標 誰にでも気持ちのよい挨拶ができ、服装の乱れのない生活ができた。			
	項目 清掃指導やボランティア活動への参加を促す等、生徒の奉仕の心を育てたか。	生徒アンケート 教師自己評価		
	指標 熱心に清掃に取り組んだ。また、生徒会や地域のボランティア活動に積極的に参加した。			
2. 夢と希望を持ち、笑顔あふれる生徒を育てる。	項目 生徒の人権を大切にした教育を行い、生徒との信頼関係を築くことができたか。	生徒アンケート 教師自己評価	B	○「わかる授業」「学習意欲を高める授業」の創造を目指し、電子黒板等のICT機器の活用を図りながら、継続的・組織的に研修を進める。 ○計画的に家庭学習を課したり、家庭での自主学習の方法を指導するなどして、家庭と連携しながら家庭学習の時間の増加と、その定着・習慣化を図る。 ○基礎学力の定着や向上を図るため、朝の学習タイムの効果的な活用法と評価の在り方の研究を進める。 ○校区の小学校と授業交流を継続しながら、学習内容についての連携を図る。 ○個々の習熟度に応じた課題の与え方を工夫し、有効な少人数授業の研究を推進する。 ○週当たりの授業時間数を増やし生徒の学力向上を図る。 ○行事の精選や日課の工夫を推進し、生み出された時間で発展的学習や反復学習に取り組む。 ○小集団での活動を授業に取り入れ、意欲的に取り組める授業を創造する。
	指標 先生は生徒のことをよく理解しており、頼りになる存在である。			
	項目 学校行事・生徒会行事等への参加を促し、より自主的・実践的な態度の育成ができたか。	生徒アンケート 教師自己評価		
	指標 学校や地域の行事に積極的に参加し、交流を深めた。			
	項目 わかる授業を創造し、生徒たちの自己実現を図り、学習意欲を高めたか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価		
	指標 授業はわかりやすく学習内容は理解できている。生徒はもっと勉強したいと意欲的である。			
項目 家庭との連携を図り、家庭学習の習慣が確立したか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	◎	◎	
指標 自主的な家庭学習ができ、宿題等も期日を守って提出できる。				
項目 授業時数を十分確保できたか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価			
指標 じっくりと時間をかけた丁寧な指導で、授業がよく分かる。				
項目 少人数授業など個に応じた指導が十分にできたか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価			
指標 自分の到達度に応じた指導を受け、学習内容がよく理解できた。				
項目 特別な支援を要する生徒に対して適切な指導が行われたか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	◎	◎	
指標 教師は個別の支援計画を作成し、一人ひとりに応じた指導ができた。				
項目 思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業の創造ができたか。	教師自己評価	◎	◎	
指標 生徒たちに思考力・判断力・表現力の方が付いた。				

自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	○中学生が地域で大変よくあいさつをしてくれるようになった。毎日の校門でのあいさつや、地域に出たのあいさつ運動の成果だと思う。今後も続けてほしい。 ○幼稚園・保育所への交流訪問や、デイサービスセンターへのふれあい訪問は、大変すばらしい。毎年大変だろうが、工夫しながら続けてもらいたい。 ○挨拶は、まず家庭において家族同士が挨拶できることが大切である。学校にばかり任せる習慣ではない。保護者への啓発を進める必要がある。 ○清掃についても同様のことが言える。以前に比べて、学校は随分きれいになっている。これも家庭との連携が大切である。
◎	◎	○部活動において今年は全国大会へ出場し活躍する選手がいた。東中の名を全国に広めてもらいうれしく思うと共に、他の生徒にも目標や励みになると思う。 ○オープンスクールでコンピュータを使った授業の様子を見て時代が変わったことを感じた。より効果的な授業のあり方を今後も考えていってほしい。 ○改善の方策に示された内容を適切に実施することが大切である。 ○学習や研究の課題・テーマを与え、その内容に向かって幅広い角度から物事を考えることができる力を高めてもらいたい。

A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった ◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

観点 (重点目標)	評価項目 (学校・教師の取組)		評価資料	達成 状況	改善の方策	自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
	項目	指標						
3. 楽しく 安心でき 充実した 生活を送 れる学校 づくりを 進める。	項目	教育相談週間(面談)や生活ノートの活用により生徒理解を深めたか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○生徒や家庭との信頼関係を、より一層強化するために、今までの取り組みを継続・強化する。そのために、教職員が指導法を研修し実践する。 ○生徒理解のための情報収集と共通理解をより充実させ、個々の生徒に対して組織的で効果的な対応ができるようにする。 ○計画的な学級活動の実践(朝の会や終わりの会を含む)により、生徒が達成感や充実感に満ちた毎日を送れるようにする。 ○社会の中で生き抜く実践力の一つとして、法・条例・規則・マナー・常識など、社会的通念について学習させ、規範意識の高揚をめざす。 ○不登校生徒には、担任だけでなく、カウンセラーや別室の利用、関係機関への相談等それぞれの生徒に応じた多方面からの対応を推進する。 ○部活動においては、技術面の指導だけにとどまらず、人間関係や礼儀・マナー等についてもきめ細かく指導するなど、成就感に繋がる活動となるようにする	○	◎	○本年度も不登校生徒の数が多いのが気になる。 ○規範意識を高めるには、家庭における教育が重要である。子どもが幼い時から、親がまず見本を示すことが規範意識を育てる基礎になる。学校だけで取り組むのではなく、保護者との連携が必要である。 ○生徒が安心して中学校生活を送るためには、生徒、先生、保護者の三者が信頼できる深い絆を持ち続けることが大切である。 ○安心して学校生活を送っていると感じている生徒が増えてきている。今後も、一人一人の生徒の思いに寄り添った指導を続けてもらいたい。
	指標	先生は私のことをよく理解してくれ、困ったときに先生に相談できた。						
	項目	楽しく安心できる学校づくりに努めたか。	生徒アンケート 保護者アンケート					
	指標	学校に愛着を持ち、毎日登校することが楽しい。						
	項目	学級経営等の工夫により、生徒は充実した学校(学級)生活を送っているか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
4. 東中を 学びの場 としてふ さわしい 環境にする。	項目	教室や廊下には生徒の作品やポスター類がきれいに掲示されるなど、環境が整備されているか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○教職員の使う言葉が生徒たちの言語環境であることを自覚し、生徒の人権を大切に話した話し方、指導の在り方を意識する。 ○生徒会の委員会活動を更に活性化させ、具体的な活動方法を学習させることにより、校内の美化に対する関心を高め、その実践力を育成する。 ○清掃活動を生徒の自己有用感に繋がる活動となるよう意識づける。 ○普段から生徒の思いや考えを大切に接し方を心がけ、指導後の声かけや変化を見逃さない。 ○集団の力を意識できるような取り組みを通して、生徒会活動が自分達の活動であると実感させ、イベントやコンクールだけの協力にならない取り組みをする。	◎	◎	○生徒会中心のボランティア活動が取り組まれていることは大変素晴らしい。今後も、地域の清掃活動やボランティア活動を続けてもらいたい。 ○体育祭や文化祭等の行事を見学させてもらい、中学生の頑張りに感動することが多くあった。先生方の指導に頭が下がる思いである。
	指標	教室や廊下には掲示物が整然と貼られ、環境が整っている。						
	項目	掃除がすみずみまで行き届くなど、校舎内外の環境美化に努めているか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	校舎内外ともに隅々まで清掃が行き届いている。						
5. 地域に 信頼され る学校づ くりを進 める。	項目	教職員の言葉遣いは人権に配慮された適切なものになっているか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○学校だよりとホームページの更新に関しては適時性を大切にし、今年度の取り組みを継続する。 ○オープンスクールの実施については、チラシや回覧板などにより広報に努め、より多くの保護者や地域住民に参加してもらえよう工夫をする。 ○生徒や教職員が地域行事に積極的に参加する。 ○生徒、保護者、地域に信頼される教職員になるためにさらに一層の職務への専念、服務規律への確立に努める。 ○自治会、青少年育成推進委員、防犯委員、民生児童委員など、青少年の育成に関与しておられる方々の協力が引き続き得られるような教育活動を展開する。 ○日々の校内巡視や、月2回の安全点検、交通立番指導等の徹底を図る。 ○校舎内外の環境整備や学習指導(教師の補助的作業)等にも地域の方のご協力が得られるような方策を検討する。	○	◎	○学校だよりで、学校の行事予定や中学生の様子がわかり、地域の話題にもなりやすい。学校だよりの発行を継続してもらいたい。 ○東中の生徒のボランティア活動や部活動の成績などいいことが、新聞に記事として掲載されると地域としてもうれしく思う。これからも頑張ってもらいたい。 ○中学生とふれあえる場(地区行事への参加等)が増えるように、地域としても考えていくが、学校から生徒への参加の啓発を進めて欲しい。 ○地域との連携で、各地区の清掃活動や防災訓練への中学生の参加が少ない。小学生までは参加する親と一緒に参加するが、中学生は思春期であることや部活動などの関係から難しいのかもしれない。
	指標	生徒や保護者に対して人権に配慮した適切な言葉遣いができている。						
	項目	生徒会活動は活発で、自治的・主体的・自律的な活動が行われているか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	生徒会の委員会活動等は活発で、生徒は自主的に活動できる。						
	項目	学校だよりやHPなどで学校の情報を家庭や地域に発信したか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	保護者や地域住民は、学校の状況をよく理解している。						
	項目	オープンスクール等を推進し、保護者や地域の人たちの生徒理解・学校理解を進めたか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	保護者や地域住民は学校行事等に積極的に参加し、また、教育活動に協力的である。						
3. 楽しく 安心でき 充実した 生活を送 れる学校 づくりを 進める。	項目	地域行事への参加・協力を通して、学校と地域の連携を図ったか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○生徒や家庭との信頼関係を、より一層強化するために、今までの取り組みを継続・強化する。そのために、教職員が指導法を研修し実践する。 ○生徒理解のための情報収集と共通理解をより充実させ、個々の生徒に対して組織的で効果的な対応ができるようにする。 ○計画的な学級活動の実践(朝の会や終わりの会を含む)により、生徒が達成感や充実感に満ちた毎日を送れるようにする。 ○社会の中で生き抜く実践力の一つとして、法・条例・規則・マナー・常識など、社会的通念について学習させ、規範意識の高揚をめざす。 ○不登校生徒には、担任だけでなく、カウンセラーや別室の利用、関係機関への相談等それぞれの生徒に応じた多方面からの対応を推進する。 ○部活動においては、技術面の指導だけにとどまらず、人間関係や礼儀・マナー等についてもきめ細かく指導するなど、成就感に繋がる活動となるようにする	○	◎	○本年度も不登校生徒の数が多いのが気になる。 ○規範意識を高めるには、家庭における教育が重要である。子どもが幼い時から、親がまず見本を示すことが規範意識を育てる基礎になる。学校だけで取り組むのではなく、保護者との連携が必要である。 ○生徒が安心して中学校生活を送るためには、生徒、先生、保護者の三者が信頼できる深い絆を持ち続けることが大切である。 ○安心して学校生活を送っていると感じている生徒が増えてきている。今後も、一人一人の生徒の思いに寄り添った指導を続けてもらいたい。
	指標	地域行事に積極的に参加する。						
	項目	P T A活動への協力など、P T Aと効果的な連携を図ったか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	P T Aの協力を得て、教育活動が活性化した。						
	項目	学校評価を適切に行い、次年度への学校教育の指針を作成したか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	アンケート等で保護者や地域住民の声をくみ取り、次年度の学校経営方針等を策定した。(教師)						
	項目	育成推進委員会などと連携を図り、生徒たちの健全育成を推進したか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
指標	地域諸団体の協力を得て、健全育成を推進した。							
3. 楽しく 安心でき 充実した 生活を送 れる学校 づくりを 進める。	項目	安全で安心な学校づくりに取り組んだか。	保護者アンケート 教師自己評価	B	○生徒や家庭との信頼関係を、より一層強化するために、今までの取り組みを継続・強化する。そのために、教職員が指導法を研修し実践する。 ○生徒理解のための情報収集と共通理解をより充実させ、個々の生徒に対して組織的で効果的な対応ができるようにする。 ○計画的な学級活動の実践(朝の会や終わりの会を含む)により、生徒が達成感や充実感に満ちた毎日を送れるようにする。 ○社会の中で生き抜く実践力の一つとして、法・条例・規則・マナー・常識など、社会的通念について学習させ、規範意識の高揚をめざす。 ○不登校生徒には、担任だけでなく、カウンセラーや別室の利用、関係機関への相談等それぞれの生徒に応じた多方面からの対応を推進する。 ○部活動においては、技術面の指導だけにとどまらず、人間関係や礼儀・マナー等についてもきめ細かく指導するなど、成就感に繋がる活動となるようにする	○	◎	○本年度も不登校生徒の数が多いのが気になる。 ○規範意識を高めるには、家庭における教育が重要である。子どもが幼い時から、親がまず見本を示すことが規範意識を育てる基礎になる。学校だけで取り組むのではなく、保護者との連携が必要である。 ○生徒が安心して中学校生活を送るためには、生徒、先生、保護者の三者が信頼できる深い絆を持ち続けることが大切である。 ○安心して学校生活を送っていると感じている生徒が増えてきている。今後も、一人一人の生徒の思いに寄り添った指導を続けてもらいたい。
	指標	定期的な安全点検、校内の巡回等、生徒の安全確保に取り組んだ。(教師)						

A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった ◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

観点 (重点目標)	評価項目 (学校・教師の取組)		評価資料	達成 状況	改善の方策	自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法	
	項目	評価指標 および 目標値 (期待される姿)							
6. 人間的なふれあいに基づく生徒指導を進める。	項目	全教育活動を通して、いじめ・暴力のない人間(生徒)関係づくり、学校づくりに努めたか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○いじめのない「安心できる安全な学校」を目指して、人権教育、道徳教育の充実を図る。そのために、「命の大切さ」や「人の痛み」がわかる心を育てる取り組みを継続して推進する。 ○不登校生徒については、不登校担当教員をコーディネーターとして学級担任、保護者、SC、SSW、心の教室相談員、赤穂市青少年育成センター(ふれあい教室)等関係機関と連携し、一人ひとりに対応した指導を行う。また、家庭との連絡を継続的に行い、生徒及び保護者への支援を続ける。 ○家庭環境等の影響で基本的な生活習慣が身につきにくい生徒が多い。学校での指導だけでは対応できない難しい課題がある。保護者の指導も含めた、地域の関係団体や関係機関との協力を進める。 ○生徒と教師、生徒同士の適切な関係づくりや、家庭と教師との連携に向け、学級担任を中心とした職員の取り組みに関する研修を推進する。	◎	◎	○中学生がコンビニのイトインで長時間滞在している姿を見かけることがあった。保護者も含めて利用方法等を指導する必要がある。 ○挨拶が一番大切である。挨拶をキーワードにして、生徒の意識を高めていくことが大切である。 ○「あいさつ の声が響く街・思いやりの心があふれる街」をテーマにした保幼小中連携した取り組みは大変よい。 ○保護者の指導を含めた、地域の関係諸団体との協力体制をもっと強力に推進する方策を考える必要がある。	
	項目	道徳教育をはじめ全教育活動を通して、他者への思いやりやマナー、命の大切さを学ばせたか							生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価
	項目	問題行動が発生した時には組織的に対応し、早期の解決を図るとともに、未然防止に努めた。							生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価
	指標	命の大切さが分かり、人の気持ちを大切に仲良くすることができた。							
	指標	教職員は問題行動に対して適切な指導をし、問題行動が減少した。							

自己評価における特記事項

○本年度は学級担任が急に若くなった。学級経営の基本的なことの研修をしていく必要がある。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

○本年度は平日のノー部活デーを火曜日を基本日としてほぼ完全実施できた。しかし定時退勤はできていないので、働き方の見直し、意識改革をし勤務時間の適正化に取り組んでいく。
○SCやSSW、心の教育相談委員等の活用を通し、不登校を生まない取り組みをすすめる。